



(題字は初代学長 山田守英氏)

第 180 号

令和2年9月16日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課



「美瑛」

(写真撮影：学生支援課)

令和2年度入学生への学長挨拶	旭川医科大学に入学して	9
…… 学長 吉田 晃敏 ……2	…… 医学科第1学年 瀧澤 爽月 ……9	
図書館長就任のご挨拶	旭川医科大学に入学して	10
…… 図書館長 藤井 聡 ……3	…… 医学科第1学年 槌賀 元基 ……10	
教授就任のご挨拶	旭川医科大学に入学して	10
…… 看護学講座 山内まゆみ ……4	…… 医学科第2学年 鈴木 悠太 ……10	
教授就任にあたって…… 医学部内科学講座	旭川医科大学に入学して	11
(消化器・血液腫瘍制御内科学分野	…… 医学科第2学年 高橋 愛絵 ……11	
(消化器・内視鏡学部門)) 藤谷 幹浩 ……5	旭川医科大学に入学して	11
教授就任のご挨拶…… 医学部内科学講座	…… 看護学科第1学年 小林 春樹 ……11	
(消化器・血液腫瘍制御内科学分野	旭川医科大学に入学して	12
(がんゲノム医学部門)) 水上 裕輔 ……6	…… 看護学科第1学年 柴田 杏美 ……12	
産婦人科学講座教授就任にあたり	旭川医科大学に入学して	12
…… 産婦人科学講座 加藤 育民 ……7	…… 看護学科第1学年 樋口詩央里 ……12	
旭川医科大学に入学して	授業評価(2019年度後期) ………………13	
…… 医学科第1学年 稲川 遥香 ……8	令和2年度 新入生ガイダンスを行いました ………………33	
旭川医科大学に入学して	令和2年度 後期の授業方針について ………………34	
…… 医学科第1学年 及川 慧大 ……8	旭川医科大学執行部紹介 ………………36	
旭川医科大学に入学して	教員の異動 ………………37	
…… 医学科第1学年 北村 優貴 ……9	訃報 ………………38	



令和2年度 入学生への 学長挨拶

旭川医科大学 学長 吉田 晃 敏

入学された医学科第一学年95名の皆さん、医学科第二学年・編入生10名の皆さん、看護学科第一学年60名の皆さん、ご入学おめでとうございます。

旭川医科大学の門をくぐった皆さんにとっては、これまでの努力が見事に実を結び、まさに「待ち望んだ春」到来と思います。教職員一同と共に、お祝い申し上げます。

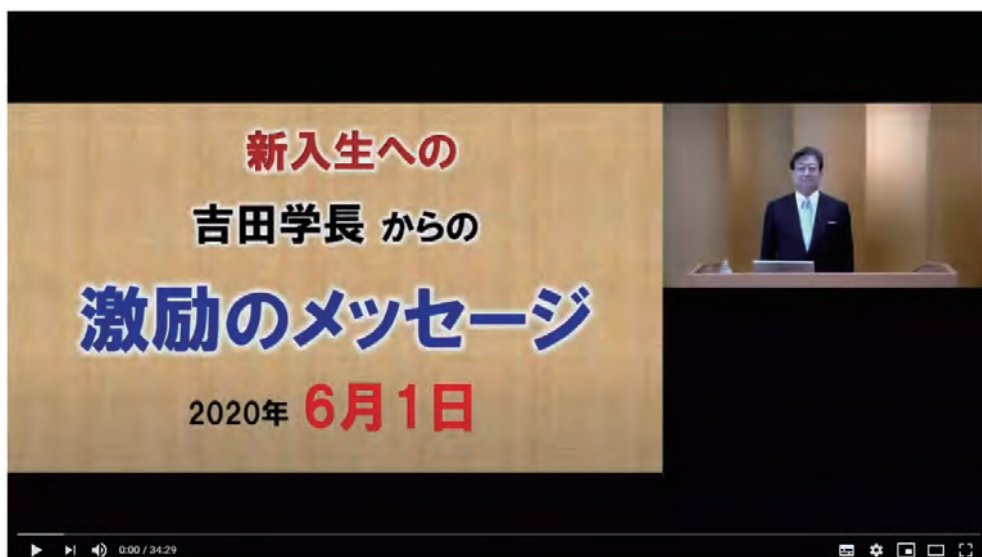
今年は、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、「入学式」を開催することはできませんでしたが、eラーニングシステム「manaba」を通して、私からの激励メッセージと、医療分野やICT分野における最新の動向と世界の情勢を踏まえた本学の「新しい取り組み」を皆さんにお伝えしました。

「新しい取り組み」とは、すなわち、①世界で初めて開発した3D-8K医療画像システムの普及、②世界で初めて開発した網膜血流計の国際治験の開始、③海外の医療従事者を教育するための国際医療支援センターの設立、さらには次世代の地域医療支援体制を構築するための④医療ドローンプロジェクト及び⑤医療アバタープロジェクトの開始、そして⑥「クラウド医療」のアフリカ展開です。

この6項目を推進することで、人口減少や少子高齢化、地域間の医療格差など、世界が抱える様々な問題に対応していきます。

さあ！ここ北の大地で、皆さんが医師として、看護職者として活躍するその日を、患者さん達は心から待っています。若き未来の医療人たちの活躍を心から祈念し、学長からの挨拶と致します。

入学おめでとう。





図書館長就任のご挨拶

旭川医科大学 図書館長

藤井 聡

旭川医科大学の皆さん、こんにちは。

2020年4月より図書館長を務めさせていただいている藤井 聡（ふじい さとし）です。よろしくお願いたします。これまで図書館長を務められた先生方のイメージは「教養あふれる知識人」です。粗野な私に勤まるのか不思議な気持ちで一杯ですが、小生なりの仕事が図書館にあるのか模索してまいる所存です。

2020年の夏を迎えました。楽しいはずの夏を今年は新型コロナウイルス感染の恐れの中で迎えています。英語の表現にon the bubble（泡の上）というのがあります。スポーツ選手やチームが予選を通過して決勝に進めるかどうかの当落線上にいる場合に使われます。人生をレースに例えると、不安で困難な現在の状況はまさにon the bubbleかもしれません。この状況を“ウイルスとの戦争”と表現するかたもいます。新型コロナウイルスは、自然界で野生動物を宿主とする病原体のいるところに、ヒトの生活が入り込んでいったからという説もあります。ですから私はむしろ真剣に考えなければならないことは、これまでの在り方を深く見つめ直し、どのように変化していかなければならないか、ということだと思えます。学習、実習などがオンラインの授業形式になったように、これまであたり前のように行われてきたことを見直し、一部は取りやめ、一部は変更する必要が示されています。カトリック教会のフランシスコ教皇はたびたび大切なメッセージを世界に発信しますので、宗教を問わず世界に注目される存在です。3月27日には以下のようなことを呼び掛けています（英語報道の小生の私訳です）。「…何が重要で何が過ぎ去るものかを選択し、必要なものとそうでないものを見分ける時です。…人生が向かう方向を…他者に向けて定めなおす時です。」私たちは閉じこもって世界に目を向けることをやめてしまっただけではありません。ヒトは弱い時にこそ新たな知を生み出して力を発揮してきました。変化に対応する能力を養うべき時代なのだと思います。

学生達が旭川医科大学に集い共に学ぶことを控えるなかで、一方では、病気をかかえておられるかたが必要な医療から取り残される事態が起こっています。言葉を掛け合う、弱いかたを見守るといったことが極端に少なくなっているなかで、どのように助けあうのかが問われます。手紙、電話、メールなどの思いの馳せ方もあるでしょう。明るい話題もあります。7月19日には旭川医大を会場としてオンライン診療・オンライン服薬指導と連動した、ドローンによる医薬品配送と非対面医療の実証実験が実施されました。オンライン診療、オンライン服薬指導、ドローンによる医薬品配送という一連の実証実験は国内で初めての取り組みです。吉田晃敏学長の指導のもとに新型コロナウイルスの禍のなかでwithコロナの時代に先進医療技術をどう使うのか、一つの回答があると思われまます。

さて、図書館は8月11日より学部学生を含む全学内者を対象に、平日9時～16時55分まで全館開館しています（ディスカッションスペース、セミナー室、サイレント学習室を除く）。マスクを着用し、体温測定を受け、手指消毒をして入館してください。座席を利用した場合は、座席（PC席の場合はキーボード等も）を消毒してから退館してください。新型コロナウイルスの蔓延がはじまった2月に比べれば、どのような場面で感染が広がりやすいかもわかってきました。施設を使う、使わないが問題なのではなく、どのように使うかが重要なのです。「体調が悪いときは入らない」、「3密を避け間隔をあける」、「換気を行う」なども重要です。感染に十分注意しながら利用いただきたく思います。

ご不明なことがございましたら情報サービス係0166(68)2226；E-mail: libserv@asahikawa-med.ac.jpまでお知らせください。よろしくお願いたします。

教授就任のご挨拶

旭川医科大学 看護学講座

教授 山内 まゆみ

このたび、令和2年5月14日付で、本学看護学講座母性看護学・助産学領域の教授を拝命いたしました山内まゆみです。浅学の身ではございますが、気持ちを引き締め、教育、研究、そして社会貢献に、一層精励いたす所存でございます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

簡単に自己紹介をさせていただきますと、出身は、十勝の真ん中に位置する帯広市で、高校までその地で過ごしました。その後、札幌で看護学生時代を過ごし、札幌医科大学医学部附属病院（当時の名称）に看護師として就職し、助産師や副師長としての臨床経験を重ねてまいりました。教育歴は、看護学生時代の恩師から、教育職へのお誘いをいただいたことをきっかけに、本学看護学講座の助手として就職したことが始まりでした。当時について思い起こしますと、臨床とは果たす役割が異なり、大学の環境や人間関係に戸惑いを感じながら過ごし、適応するまでに若干の時間を要したことを記憶しています。その後は、助教、学内講師を務めさせていただいた後に、札幌市立大学看護学部、および助産学専攻科、同学大学院で講師を務め、2018年度より、本学看護学講座の准教授として着任し、現在に至ります。

さて、学生の皆さんとは、母性看護学、助産学における学習や、研究の支援に関わることとなります。これら専門分野における主要な教育目標は、次世代の育成に関わる看護・助産を教授し、看護実践能力、助産実践能力を育成することです。支援する対象者は、女性であり、次世代を担う子どもを育てるためには家族も含まれます。しかし、日本の社会で大きな課題の一つとなっている少子化は、妊娠、出産、育児に関係する学習の機会の減少、新生児や乳児に関わる機会の減少を招いており、教育上、学習環境の大きな問題点となっています。看護学を学ぶ学生の多くは青年期にあり、将来、次世代を担うことができる人として成長する時期でもあります。私は、母性看護学の講義や演習・実習は、看護学生にとって専門的な学習の場であることはもちろん、学生自身が人として発達・成長するために大切に貴重な経験の場と考えています。そのため、母性看護学で大切にしたいことは、月並みではございますが、妊娠、出産、育児、新生児と関わるための学習の機会を守っていきたいと考えています。特に、新生児を抱く、あやす、着替えをする、オムツを替える、抱くことで新生児の体温、においや柔らかさを感じる等、ごく当たり前の養育場面を経験することが困難な時代だからこそ、母子関係という特別な関係性、無条件に守られるべき命の存在を感じることが出来る機会を保持できるよう努力していきたいと考えます。

助産師課程では、教育カリキュラム上、看護基礎教育と助産基礎教育が並行して進むことが本学の特徴です。現状では、集中講義・演習、および夏季休暇の一部を活用した実習を設けています。先に述べたとおり、少子化は、助産師課程へ直接的に影響し、分娩介助数の確保が困難になり、実習期間の延長という悪循環を招きます。そこで、母性看護学の学びを前提として構成した助産師課程の教育の充実を視野にいれ、看護実践能力を含めた助産実践能力が修得できるよう、シミュレーション学習を積極的に取り入れていきたいと考えています。教育の効果を評価する研究を並行しながら、助産基礎教育の質の向上を目指していきたいと考えます。

最後に、これまでに行ってきた研究テーマは、看護学教育、助産師教育（基礎教育、継続教育）、生涯学習に関するものが多く、直近では、シミュレーション教育に関する介入研究に取り組みました。これらの研究分野に興味をお持ちの学生や、看護職の皆様、是非、研究を一緒に進めていきましょう。



教授就任にあたって

旭川医科大学内科学講座
消化器・血液腫瘍制御内科学分野
(消化器・内視鏡学部門)
教授 藤谷 幹 浩

このたび、令和2年6月18日付で、旭川医科大学内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学分野（消化器・内視鏡学部門）の教授を拝命いたしました。この部門は、消化器病学および内視鏡学を専門とした内科学の部門として創設され、私が最初の教授を務めさせて頂くことになりました。非常に光栄でありますとともに、身の引き締まる思いです。また、私を育てて下さいました学内外の諸先輩に、この場をお借りし深く感謝申し上げます。

私は、1989年に函館ラ・サール高校を卒業し、本学に入学いたしました。卒業後は第三内科に入局いたしました。1年間の学内研修後は岩内協会病院、(財)早期胃癌検診協会（東京）、町立中標津病院、市立旭川病院にて計8年間、一般内科から消化器内科まで幅広く勉強させて頂きました。その後、旭川医科大学に戻り、2年半の米国シカゴ大学への留学を経て、現在に至っております。大学に戻ってからは診療に加え、研究や教育についても学んでまいりました。診療を中心に始まったこれまでのキャリアを十分に生かし、診療に直結するような教育、研究を推進して行きたいと思っております。

内科医は、患者さんの訴えや身体所見をもとに、どのような病気であるかを的確に診断し、そして病気の重症度や進行度を正しく評価することで最適な治療法を選択することが求められます。消化器内科とは、口から肛門まで続く消化管とそれに付随する膵臓や胆嚢、肝臓を診療する分野であり、これらの臓器に病気ができると腹部のみならず、胸部や上下肢を含めた、ほぼ全身に様々な症状が現れます。したがって、的確な診断を行うためには全身の症状をきちんと把握する必要があります。私は、一般内科と消化器内科をバランスよく学習することで、様々な患者さんの訴えや身体所見を正しく評価する診療技術が身に付けられると考えており、専門診療に偏ることなく指導していこうと思っております。

また、消化器疾患の診断・治療には内視鏡の技術が大変重要になります。当部門では、常に内視鏡の最先端技術を取り入れ、実臨床に生かすとともに、8K高精細内視鏡などの世界初の内視鏡技術の開発も行っております。また、消化器癌に対する内視鏡的切除や炎症性狭窄に対する内視鏡的拡張術、膵・胆道閉塞に対するドレナージ、静脈瘤結紮術や硬化療法など、日々数多くの内視鏡治療を実施しており、患者さんの病状回復に努めているとともに、本学の学生や研修医が多くの症例を学ぶよい機会となっております。

さらには、難病やがんの病態解明や新薬候補分子の発見と実用化へ向けた研究、血液や尿などの体液を用いたがん遺伝子診断などの研究も進めており、これらの成果は多くの特許申請・取得および英文誌への論文発表へと繋がっております。またこれらの研究成果をもとに海外との学術交流を行っており、多くの海外留学生を輩出し、国際研究協力を展開しております。

このように、患者さんへの親身な医療面接から最先端の内視鏡技術をベースとした消化器診療の実施、さらには我々が発見した新薬候補分子やがん遺伝子診断の実用化研究の推進、そしてこれらを有機的に結び付けた診療（患者）ベースの教育と国際感覚を身に付けた医師の育成が当部門の目指す方向性です。

旭川医科大学の消化器・内視鏡学部門が前進するためには、本学の学生やご父兄の皆様のご協力が不可欠です。消化器分野の診療、研究、そして教育に精一杯努力してまいりますので、皆様からのご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



教授就任のご挨拶

旭川医科大学医学部内科学講座
消化器・血液腫瘍制御内科学分野
がんゲノム医学部門

教授 水上 裕 輔

2020年6月18日付けで、内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学分野 がんゲノム医学部門の教授を拝命しました水上裕輔です。日本人のがん死の半数以上を占める消化器領域を中心に、がん診療体制をさらに発展させ、同時にゲノム科学を医療に橋渡しする役目を担うことは非常に光栄でありますとともに、大変身の引き締まる思いです。

私は道南の亀田郡大野町（現北斗市）出身で、1993年に第15期生として本学を卒業しました。卒業直ちに、内科学第三講座（並木正義教授）に入局し、四半世紀にわたり「研究ができる消化器内科医」を目指して参りました。私の専門分野は膵胆道系疾患であり、難治がんとして名高い膵癌及びその前駆病変の発生と進化メカニズムの理解を通じて、早期診断の道筋を付けたいと考えています。がんゲノム医学は、遺伝学や分子生物学を軸とする基礎医学を、がん診療の現場へと直接還元することができる、社会的に大きな役割を担う領域です。次世代の「プレジジョンがん医療」に向けた足場作りのためには、基礎と臨床が一体化したチームが不可欠です。ハーバード大学マサチューセッツ総合病院での留学時に、専門領域の異なる研究者からなるチームが先進的な知見、ブレイクスルーを生み出す光景を目の当たりにし、いつか母校においても再現したいという夢を描いてきました。これから、その実現に向け尽力致します。

医師として歩みはじめた当初より形態学の基礎を教わり、病変を正確に描出する画像診断へのこだわりと、切除材料の病理像との徹底した対比が重要であることを学びました。時代が変わっても、その原点に変わりはありません。一方、将来に向け膵癌をはじめとする難治がん患者の生命予後を抜本的に改善するためには、何か別の手段・アプローチが必要であり、その一つが「ゲノム情報」であると考えています。私はこれまで、「がん」という病気の原理原則を解明したいと考えながら、消化器専門領域での診療経験を積んできました。その中で得た知見は、少しでも早く、より多くの患者を救うための一助にすべきであり、研究から診療までを組織化した新しい形で社会貢献する必要性を痛感します。

がんゲノム医療政策において、昨年より遺伝子パネル検査が保険適用となり、一般社会での関心が急速に拡がっています。この先、本格的な普及期へと進むことが予想されますが、国の政策で進められるパネル検査サービスの拡大のみに留める事なく、さらなる知の創造に結びつける教育・研究活動に積極的に取り組む必要があります。ゲノム医療はまだ発展途上であり、何よりも学術的な基礎データの蓄積と研究開発の具体的構想、中長期的な戦略がアカデミアには求められます。またインフラの整備など、課題の多い新領域です。北海道という広い地域性を考えると、大学の取り組みが地方にまで行き渡る仕組み作りも必要です。このような観点から、専門スキルを有する国内外の大学や企業とも密に連携し、新しいがん医療を実践するための組織作りや、ゲノム解析技術の体系化・標準化が求められています。そして、出口となるプレジジョンがん医療を担う人材の育成も急務であり、本学医学部学生の臨床教育、大学院生及び教員の研究指導は私の重要な使命と認識しています。

各診療科領域で、ゲノム知識や技術を要する診療並びに研究のニーズは今後ますます高まると予想されます。これまで本学において培ってきたゲノム解析の手法や知識は、臓器を問わず役立つはずで、がん研究・診療に関わる基礎医学・臨床講座、病院部門などの枠組みを横断したinteractiveな協力は、お互いの向上と、大学全体のレベルアップにつながると考えています。内科学講座に新設されたがんゲノム医学部門がハブとなって広く学内協力を深め、先進的な関連技術を有する研究機関や企業などの学外組織との連携にも務めながら、世界へ向けた新しい医学・医療の情報発信源として旭川医科大学のプレゼンスを高めるため、全力を尽くしていく所存です。どうぞよろしくご挨拶申し上げます。



産婦人科学講座教授就任にあたり

旭川医科大学 産婦人科学講座
教授 加藤 育 民

令和2年6月18日付けで、本学産婦人科学講座第四代教授に就任いたしました加藤育民（かとうやすひと）です。私は、深川市立病院で生まれ、3歳の時父の転勤で苫小牧市に転居し、私の人生を決定する方に出会いました。その方は、近所の助産師さんで、「将来、産婦人科医師になったらいいね」と私にいつも言われたそうです。「三つ子の魂百まで」でしょうか、医学部入学の厳しさを経験しながら、昭和61年に本学に入学することができました。（私が大学四年時に彼女は子宮肉腫で亡くなってしまいました。私が、産婦人科医師になったことを知らずに他界し、非常に残念でいます。）

入学時、産婦人科学講座は、初代教授清水哲也先生が教室運営をされていました。五年生の産婦人科臨床実習で多くの命の誕生と癌で苦しむ女性が同じ病棟にいることに衝撃を受けたものです。六年生時（平成3年）に要胎の帝王切開術を見学し、産婦人科医療の道を最終的に選択しました。平成4年に、片山英人医師（現：当科准教授）、堀川道晴医師と共に当講座（第二代教授 石川睦男先生）に入局しました。当時の旭川市内の出生数は、四千人ほどで、市内には多数の分娩を取り扱う産婦人科施設がありました。本学医学博士号を取得した平成14年からホルモンと発癌に関する研究生活をNIHで送りました。平成17年に本学講座（第三代教授 千石一雄先生）に戻り現在に至っております。

帰国後の産婦人科医療は、「少子化問題」「地域周産期医療問題」「若年者の子宮頸癌患者増」など検討しなければならないことが山積でした。最近では、「働き方改革」「女性医師割合増」「コロナ禍」など課題も増えています。特に、「少子化問題」は、医療界だけではなく、地域人口、地域経済にも影響する国難となっています。旭川市内では、昨年度の出生数が二千人と急激に減少し、小学校、中学校、高校の閉校が静かに進行しています。併せて、地域人口も減少し、高齢者の数も減少に転じてきています。

少子化問題に対しては、若者たちへの財政支援も必要ですが、彼らに対して、自分の健康と性について自覚できるように施設外活動も重要と考えています。特に、若年者の健康問題として、産婦人科分野として若年女性の子宮頸癌対策が重要と考えています。日本では、2000年頃より若年女性の子宮頸癌患者が増加し、子宮摘出を余儀なくされる若年女性も増えています。子宮頸癌は、性感染症の一つであるヒトパピローマウイルス（HPV）が原因であることが明らかであり、子宮頸癌検診並びに子宮頸癌ワクチン接種により早期発見と罹患回避に繋がります。世界では、9価ワクチン接種が可能となり、前癌病変の急激な減少報告を認めています。本邦においても、副反応への対応を充分に行い、多くの若者がこのワクチンを接種することで子宮頸癌が将来日本では珍しい疾患になることを願っております。

また、不妊症部門にも力を注ぎ、子供が欲しいご夫婦に子供を得る可能性を高めるサポートを継続して参ります。分娩数が減少しても、高度医療を必要とする新生児は残念ながら減ってはいません。小児科と強固に連携し、新生児の命をしっかりと守ることに全力で取り組んでいく次第です。更に、私ども産婦人科学講座は、道北および道東における産婦人科領域の核として、質の高い医療を住民に提供し続けていくために医育機関として教育や次世代の人材育成に全力を注いでいく所存です。

最後になりますが、産婦人科医師数、地域周産期医療状況、患者数（出生数）、働き方改革等を総合的に検討し、将来を見据えた方針を、関連病院を含めて「早期に」「確実に」進めて参ります。近々の課題の新型コロナウイルス感染症に関係しては、妊婦の皆様が安心して出産いただけるように教室員全員で尽力いたします。今後とも、当講座への皆様方からの御指導ならびに御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 稲川 遥香



今年は入学式がなくなり、オンラインでの授業開始から約3か月が経ちました。入学したという実感もあまりわからないまま新生活が始まり、初めはパソコンでの授業への戸惑いや友人関係に関する不安でいっぱいでした。特に早期体験実習で

は施設の利用者の方々と接する実習、高齢者体験実習、そして手洗い実習など多くの実習が実施できなくなり残念な思いがありました。ですが、オンライン実習であっても高齢者の生活における不便さを実感するため、耳栓をしながら電話をかける等の行動を実践したり、配信された動画を見ながら手洗いの仕方を学び実践したりと自宅にいながらも工夫して学ぶことができました。また、班で実習の内容をまとめプレゼンテーションを制作する際には、オンライン上でパワーポイントを共有しながら班のメンバーと作業を進めることもしました。そのようなオンライン実習を通して、医学科と看護学科の交

流や班のメンバー同士の交流も深めることができ、戸惑いや不安が払拭される充実した時間になったと感じています。

私は今までどうして自分が医師になりたいのか、どんな医師になりたいのかについて多くの時間を使って考え、その思いを胸に入学しました。しかし医学生としての実感はなかなか持たずにいました。ですが今の状況も踏まえ、多くの先生方から「医療機関と隣接している大学であるからこそ、1学年であっても地域の人に医療関係者として見られている」ということを耳にする機会が多くなりました。この言葉は私にとって、将来医療従事者として働く自覚や責任を改めて感じ、医学生として日々の学習・学校生活に、よりいっそう気を引き締めて取り組む良いきっかけとなりました。まだ慣れないことも多く、変則的なスケジュールについていくのが精一杯ですが、友人や先輩方の助けも借りながら、将来この状況で努力したことが良い経験となって思い出されるよう努力していきたいです。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 及川 慧大



旭川医科大学に入学し、授業開始から3ヶ月ほどが過ぎましたが、まだ大学生らしい生活というものは実感できていません。同じ一回生の学生達も予定とは違った生活を送っていることと思います。私はまだ知り合いもできておらず、少

し心細い思いをしていますが、その分登校が再開されたときを楽しみに思っています。

さて、学生の本分である勉強についてですが、今年は自学が主になっています。生物を履修していた私にとっては、基礎生物学や医学チュートリアルの授業はやりやすいですが、反面物理学や、高校の内容から大きく発展した基礎化学の授業には苦勞する身です。医科大学であることから、基礎教養の部分をかなり圧縮して行っているようなので、復習に大きく時間を割いて理解に努めることが重要だと感じています。

また、医学系の授業の先駆けとして医療概論や早期体験実習といった授業も行われました。

例年は現場に赴いて実習を行っていたようですが、今年はネット上でのグループワークにより、「自分の持つ医師像」というものを深めていく内容でした。地域医療や医師の倫理観といった観念に触れて、私の考えていた医師という存在よりも、実際の医師には大きな期待や責任が付き纏うことを知りました。また、医療概論では医療というものが長い年月の間に発展してきた過程を学び、その哲学的とも言える論理を自分なりに考えることの重要性を学びました。

自肅が求められてやれることが少ない今、私は多岐にわたる分野の本を読むことにしています。小説から新書まで様々ですが、教養を深めていくことで、医師として役立つものもあるのではないかと思います。

最後に、本当の大学生活というものがこれから始まります。一人でやることを見つけるのもいいですが、やっぱり大学生は多くの人と関わって色々なものを吸収できる立場であると思います。新しい人々との出会いを大切に、6年間を過ごしていきたいと思っています。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 北村 優 貴



苦しい受験勉強を乗り越え医学生となった私は、部活での先輩との交流や実習先での人々のふれあいといった華々しい大学生活への一歩を踏み出す、ということはありませんでした。無論、新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、外出自粛、自宅学習を余儀な

くされたからです。道外から引っ越してきた私は、大学での講義が受けられないことを理性では納得してはいるながらも、周りに知人がいないことや慣れないリモート授業の開始により不安を感じていました。しかし、大学の先生方が多くの配慮をしてくださったおかげでその心配は杞憂であったと言えます。

私が心配していたのはインターネット環境が原因で授業が受けられなくなることでした。この心配は先生方も想定していたようで、大学が使う講義資料は授業の前日の夜に提示し、ダウンロードできる時間を長くするというで解決を図っていました。また、私も実際に体験しましたがこちらの通信トラブルで出席確認を提出できなかったという不測の事態にも、事情を説明すれば対応してくださりました。このトラ

ブルの対応があったからこそ、私は安心して授業を受けることができたようになったと思います。

また、リモート授業という形態は私に利点もありました。それは好きなタイミングに何度でも復習できるという点です。講義資料はすべてデータとして残っているので、資料を見返し、わからないと感じても見直すことができます。実際に、数学の初めて聞く概念や化学の難解な計算は復習する時に何度も音声や資料を見聞きすることで理解できました。さらに、自分の家という最も安心できる空間の中で勉強できることも一つのメリットです。医療概論という授業では自分自身で考え抜いてみるということが必要な授業だったのでより深く自分の考えを掘り下げていくことができたと思います。

このように、通常の授業ができない状況でも学習面では充実していたと思います。しかし、四か月たった今でも数回しか同級生と話す機会がないのは悲しいものです。新型コロナウイルスは依然猛威を振るっていますが、社会は適応しようとしています。登校が再開され対面授業が可能になっても私たちは細心の注意を払う必要がある以上、友人と食事を気兼ねなくすることなどは先の話になるでしょう。しかし、私はそれが実現することを切に願っています。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 瀧澤 爽 月



入学してから、あっという間に4ヶ月が経とうとしています。今年、コロナウイルスの影響もあり、例年のような学生生活が送れずにいることがとても残念です。思い描いていた学生生活とは違いますが、インターネットを利用した授業

を通して、新たな知識が増えていく喜びや、レポートなどの提出物の忙しさを感じることで、大学生としての自覚が少しずつ出てきました。インターネットを介した授業は分からないことも、不安な気持ちにもなりますが、先生方が親身に相談に乗ってくださったり、丁寧に質問に答えてくださったりすることで安心して授業を受けることができています。

この4ヶ月の中では、資料を読み自主的に学ぶ授業だけでなく、インターネットを通じて話し合いを行う授業も多くありました。特に、早期体験実習では、例年のように、実習に行くことが出来ないため、実習はできませんでしたが、

班で地域医療についてやプロフェッショナルとは何かを話し合い、最終的にはパワーポイントでの発表会を行いました。初めは、まだ顔も合わせたことのない同級生と話し合いをすることに不安を覚え、上手く進まないこともありましたが、回を重ねていくごとに議論が発展していき、最後の発表会ではどの班もまとまりがあり、とても充実したものになりました。また、この実習を通して、自分自身の将来の医療者像を見据え、今後の学生生活を自分がどう送るべきかを考えることが出来ました。その他の授業でも、高校までとは違い、自分の興味を持っている分野について学べることは、発見や学びの多い毎日です。

今後、大学に通い、同級生や先輩方、先生方と顔を合わせ、充実した大学生活が早く送れるよう、今は医学生として勉強に励むだけでなく、社会にとって良い行動をとっていきたいと思います。また、これからの学校生活で自分がどうして旭川医科大学に入学してきたのか、初心を忘れずに生活を送っていきたいです。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 樋賀元基



旭川医科大学に入学して、4か月が経ちました。新型コロナウイルスの影響で入学式、新入生歓迎会、医大祭などのイベントがなくなり、授業もオンラインで行う形態になりました。異例の事態で大学に入学した実感が湧かないことや学生同士の関わりもな

いため、不安も大きくありました。本格的にオンライン授業が始まってから、ほぼ毎週レポートに追われており、慣れないことばかりで戸惑うこともあります。まだまだレポートを書くのには苦戦していますが、頑張っていきたいです。また、今年から初めて一人暮らしを始めましたが、想像していたものよりも大変でした。自粛のため孤独の時間が長く、慣れない自炊に苦労もしましたが、親元から離れて自由に暮らす生活は新鮮でもありました。今は少しずつ旭川での生活に慣れてきて、一人暮らしを楽しんでいます。

大学での授業は、高校との学習方法とは異なっ

ていると感じました。高校では、問題を解く力をつけることや授業の内容を理解することに焦点が当たっています。そのため、高校では問題集を解かせるような課題がほとんどでした。しかし、大学の課題は論理的思考を強いられたレポートが多いです。物事を理解したうえで、自分の力で考え、自分の言葉で文章を作成する必要があります。

これまでの授業の中では、スレッド形式の討論が印象的でした。オンライン上でチャットのようなものを使い、意見交換を行うのは新鮮で、今の時代の流れに沿った新しい学習方法なのだと感じました。直接会わなくとも他の学生の考えを知ること、自分が気付かなかった点や新たな考え方などを知ることができ、有意義な時間を過ごせました。

これから本格的な対面授業や部活動等が始まるので、とても楽しみです。医学生として、正しい知識、行動を学び実践していきたいです。学生同士の交流を深めながら、ともに研鑽を積み、切磋琢磨しながら社会の役に立つ医師を目指して頑張っていきたいです。

旭川医科大学に入学して

医学科第2学年 鈴木悠太



2020年4月、2年次編入生として旭川医科大学に入学いたしました。自然豊かな旭川での生活はとても穏やかで、殺伐とした満員の通勤電車で揺られていた社会人生活が嘘のようです。前職では、医療機器を扱う企業の営業職として、東日

本全域の病院を担当しておりました。旭川医科大学病院もその一つでしたので、病院前を通ると当時のことを懐かしく思い出します。

今年度の入学生にとって、大学生活は新型コロナウイルス感染症により自粛生活から始まりました。入学式も中止となり、大学生となった実感があまり湧かないまま現在に至るわけですが、この自粛期間は私にとって医師となる覚悟を問われる機会となりました。世界中で医療従事者が新型コロナウイルスと闘っている中で、将来医師を目指す人間として今できることは、感染を広めないための行動、そして大学の講義に真剣に取り組むことで確かな知識を身につけ

ることだと考えております。

旭川医科大学は地域医療を重要視しており、カリキュラムには協調性やチームワークが求められる実習科目が多く見受けられます。夏休みまでの期間は、残念ながら対面での講義は実施されませんでした。早期体験実習、チュートリアル、生化学実習において、同学年の学生とのオンラインでの議論は非常に良い経験となりました。世代の離れた学生の意見は新鮮で、自分には無い視点や若い学生ならではの考え方など学ぶことが多いです。

10名の編入生は年齢・経歴・動機が多様であり、話を聞くことがとても勉強になります。大学生として学ぶ機会を与えてくださった旭川医科大学に感謝し、大学が編入生に期待する役割をよく考え、学年全体に良い刺激となれるよう努めてまいります。また、私自身も人間として成長できるよう、様々なことに積極的に取り組んでいきたいと考えております。一日も早い新型コロナウイルスの終息を願い、有意義な大学生活となるよう勉学に勤しんでまいります。

旭川医科大学に入学して

医学科第2学年 高橋 愛絵



旭川医科大学に入学して約4ヶ月が経ちました。新型コロナウイルスが流行する中、これからどんな学生生活になるのかという不安もありますが、大学が、オンラインで授業を受講でき、学習を続けられる環境を作ってくださったことに感謝しています。

しかしやはり、オンライン授業のみの大学生活を過ごして、大学は勉強・研究の場ではありますが、大学で「講義を受ける」「研究をする」以外の時間、そしてキャンパスに通えること自体の価値も再認識しました。入学したら医学の勉強はもちろん、研究もしたい、部活も入りたい、とやりたいことを頭に思い描いていましたが、今の状況では難しく、この状況を仕方がないこと、様々な工夫の下、オンライン授業が受けられることはとてもありがたいことと理解していますが、正直悲しい思いもあります。また、勉強をす

るという目的では、オンライン授業で学べることも多くあり、利点もあるのですが、私の場合、勉強をするときに学問的興味以外にも「友人が頑張っているから自分も頑張らなきゃ、負けたくない」という気持ちがいかに自分のモチベーションに繋がっていたかを実感しています。

同時に、医学部学士編入試験でも「なぜあなたが医師になる必要があるのか」「それは本当に医師にならなければならないことなのか」「これまでの経験を医師としてどう活かすのか」を何度も問われ、考えてきましたが、この数ヶ月間はさらに、将来医師として働く覚悟を強く問われてきた期間とも感じます。現在働く医療従事者の方々が発信する話を聞き、改めて医療従事者の仕事の重要性和その責任の重さを感じています。制限のある学生生活ではありますが、これから5年間勉強ができる環境に感謝しながら勉学に励み、将来どのような医師を目指すか、医師として何をしたいかを考えて学生のうちから将来を見据えて行動していきたいです。

旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 小林 春樹



旭川医科大学に入学してから約4ヶ月が経ちました。今年は新型コロナウイルスの影響で授業はオンラインで行われています。知らない土地で、慣れない形式で行われる授業に初めは戸惑いや不安を抱いていました。しかし、徐々に知り合いが増えたり付近の環境等も分かってきて、今では不安はありません。

学業面では、高校までの授業とは別物だという印象を受けました。単純に内容が難しいという授業もありますが、それよりも自分の考えを持つことが大切な授業が多くあると思いました。新型コロナウイルスの影響で早期体験実習もオンライン上で行われたので実技科目はほとんどやっていない状態に近いと思います。そのため通常登校が可能になった時には実技の練習を行いたいです。その他にはレポート提出の多さに驚きました。入学前のイメージでは長期休暇前

などにレポートが課題として出されるイメージでしたが、実際にはほぼ毎週何かしらのレポートを書いています。よく、看護学科は課題が多いと先輩たちから聞いていましたが、予想をはるかに上回る量の課題が出ていて、放課後が暇な日というのはほとんどありません。

生活面では、僕は下宿暮らしなので頼れる先輩や同期の友達が周りにいます。そのためオンライン授業でも誰かと会話が出来るので精神面では非常に助かっていると思います。その他にもアルバイト先での知り合いもいたりするので人間関係は思っていたより充実していると思います。これから学校に行けるようになれば、もっと多くの友達が出来たり、部活動などで先輩が出来たりするのかなと思うと、とても楽しみです。

大学生活は4年間というとても短い期間ではありますが、その限られた時間の中で自分の目指す理想の看護師像を目指して勉強するとともに、勉強以外での思い出も多く作れるような大学生活を送りたいと思います。

旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 柴田 杏美



入学式が行われる予定だった4月6日から、約4か月が経ちました。世界中で猛威を振っている新型コロナウイルス感染症の影響で、通学することも、入学式や新歓、医大祭などの行事を行うこともできず、大学生としての生活を未だ実感することができていない状態です。

5月から始まったオンライン授業は、初めてのことばかりで不安を抱えながらの受講でした。ですが、一つひとつを分かりやすく説明してくださったり、見やすい講義資料を作成してくださったりなど、先生方の様々な配慮のおかげで、manabaでの授業にも慣れることができました。自宅での学習が主である今は、各々の学習に取り組む姿勢が試されると思います。講義資料や動画をいつでも繰り返し閲覧できたり、自分のペースで予習・復習できたりなどのオンラインならではの利点を活かして積極的に学習し、課題の管理にも気を配って余裕をもって課題に取

り組んでいきたいです。また、今は難しいですが、部活動に参加することで、学科や学年を越えて縦にも横にも繋がりを広げられると思います。充実した4年間にするために、勉強だけでなく、友達や先輩後輩との関わりも大切にして、大学生にしかできないことをたくさん経験していきたいです。

通常の大学生活を送れるようになるにはまだ時間がかかりますが、この環境でできることに最善を尽くし、少しでも理想の将来像に近づけるよう努力していきたいと思います。これから授業の内容は難しくなっていく、壁にぶつかることもあると思いますが、自身の夢を叶えるためにも、仲間と協力しながら常に向上心を持って学習し、講義・演習・実習などの様々な場面で出会う新たな発見を積極的に吸収して、自分自身を成長させていきたいです。4年間という時間は長いようでとても短いと思います。1日1日を大切に過ごし、勉強にもその他の活動にも精一杯取り組んで、悔いの残らない充実した大学生活を送っていきたいです。

旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 樋口 詩央里



旭川医科大学に入学して約4か月が経ちました。入学式や新歓合宿、医大祭などが中止になってしまい、学校に登校することなく、オンライン授業が始まりました。思い描いていた大学生活のスタートではなく戸惑うことも多くありましたが、専門性の高い授業を通して、医療の道に進んだ実感が湧きました。また、初めは慣れない土地での一人暮らしで本当に心細く、不安もたくさんありましたが、徐々に知り合いができ旭川での生活が楽しくなってきました。

早期体験実習Ⅰでは、遠隔でのグループワークを通して、北海道の医療の現状について学ぶことができ、自分の将来像を明確にすることができました。実際に体験することができないからこそ、医療従事者を目指している自分と向き合える良い機会になりました。医療施設で実習ができるようになるまで、日々の学習を通して

看護師に必要な知識を身につけたいと思いました。また、オンライン授業ではメールや掲示板等で、わからないことを質問できるため、疑問をそのままにせず、すぐに解消することができ、勉強の効率が上がっていると感じています。

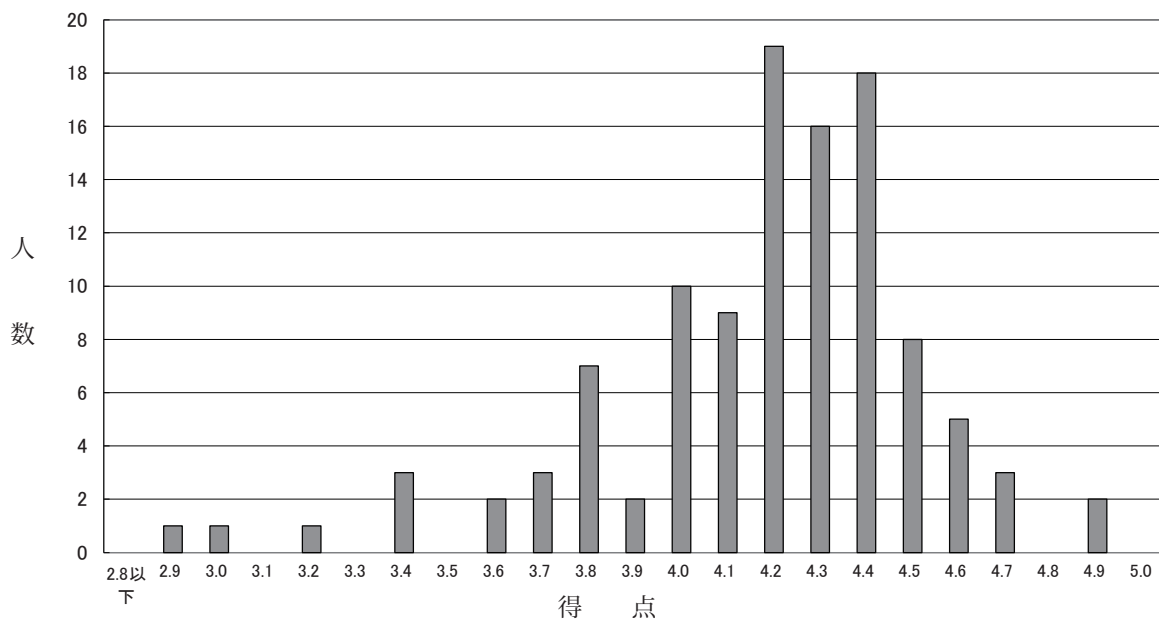
夏休み前のガイダンスでは、先生方から「入学おめでとうございます」という言葉を直接聞くことができ、とても嬉しかったことを覚えています。これからも続くオンライン授業に適応しながらも、対面での学びを大切にしたいと思いました。大学に通えるようになったら、同じ夢に向かって一緒に頑張り励まし合えるような友人を作りたいです。そして、ずっと楽しみにしているサークル活動に参加し、交流の輪を広げていきたいです。

旭川医科大学で過ごす四年間は、あっという間ですぐに過ぎてしまうからこそ、限られた時間を大切に過ごしていきたいです。そして、自分が目標としている将来像を実現できるように、日々の勉強を怠らず、目標を忘れず、仲間と協力しながら努力していきたいです。

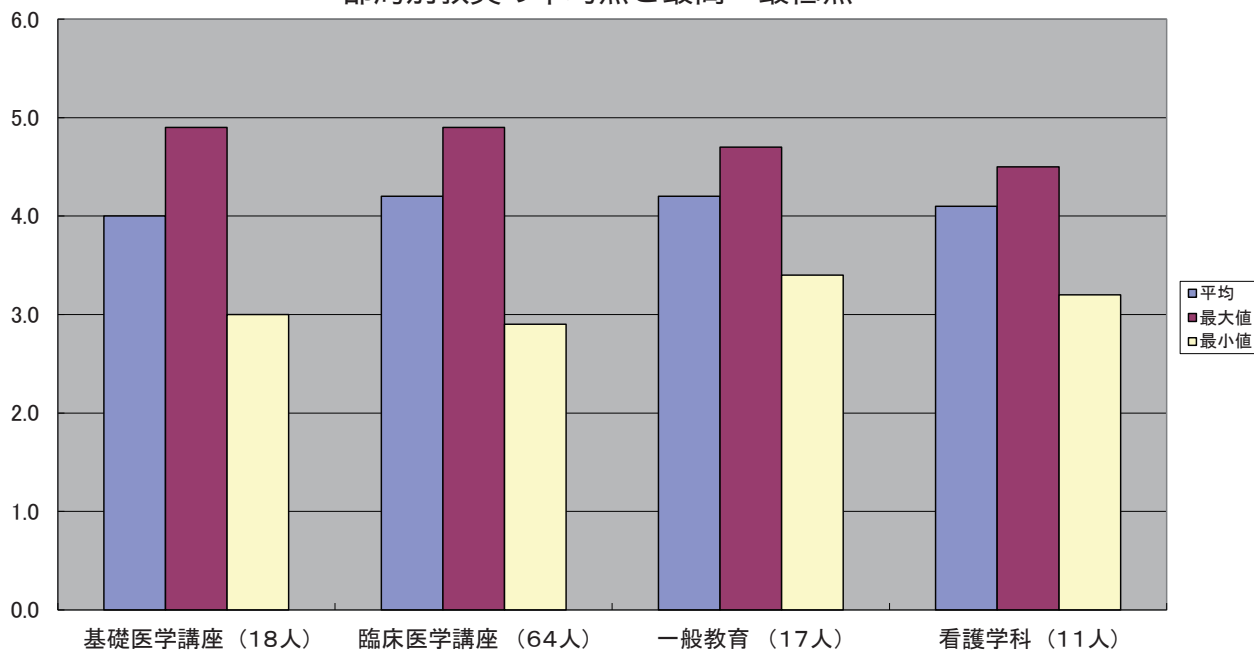
2019 年度後期 「講義に対する学生評価」 における全教員の得点分布

得点		2.8以下	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
人数			1	1		1		3		2	3	7	2	10	9	19	16	18	8	5	3		2	

(実施人数110・平均4.2)



部局別教員の平均点と最高・最低点



講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- | | |
|-------------|-----------|
| ⑤ 強くそう思う | (非常によい) |
| ④ やや思う | (良い) |
| ③ どちらとも言えない | (普通) |
| ② あまりそう思わない | (あまり良くない) |
| ① 全くそう思わない | (良くない) |

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなたの履修態度について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。
	問2 授業に毎回出席しましたか。
	問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。
	問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
目的の達成	問5 科目全体の到達目標を最終的に達成することができましたか。
科目内容	問6 あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか。
	問7 科目を履修することで、今後の学習意欲は増しましたか。
総合評価	問8 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強く思う (非常に良い)
 ④ やや思う (良い)
 ③ どちらとも言えない (普通)
 ② あまりそう思わない (あまり良くない)
 ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：医学英語 I A (医学科第1学年通年／必修)

履修者数：106 配付数：105 回収数：104 回収率：99.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.2	3.9	2.7	3.6	3.8	3.6	3.9

*評価に対するコメント

医学英語 I A 担当教員

学生は授業の演習に熱心に取り組んでいました。語学という性質上、授業外の取り組みが個人のレベルアップに重要になってきます。今年度は、英作文の基本的な小テストを取り入れました。取り上げた英文は日英語の比較をする上で重要な事項を集めたものですので、自学自習に役立ててください。来年度以降も専門文献の読解力の向上と読解から論文執筆への応用を見据えての英語力を高めることを期待しています。

科目名：医学英語 I B (医学科第1学年通年／必修)

履修者数：106 配付数：104 回収数：90 回収率：86.5%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.3	4.3	3.5	4.1	4.3	4.1	4.4

*評価に対するコメント

医学英語 I B 担当教員

This year's first year medical students proved themselves to be more that adept at the challenges of English. As future doctors they will need a command of English in order to work in an increasingly global society. Doctors need not only the fundamentals of English grammar, but a mindset that has them looking outward. The first year medical students appeared eager to communicate in English and a desire to learn more. I hope their enthusiasm will continue and, as they get closer to becoming doctors, they will continue to study and learn English.

科目名：基礎生物学（医学科第1学年通年／必修）

履修者数：108 配付数：107 回収数：103 回収率：96.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.5	4.0	3.3	4.0	3.8	4.2	4.3

＊評価に対するコメント

基礎生物学 担当教員

本科目の目標は、基本的な生命現象のメカニズムを分子・細胞レベルで理解し、論理的説明できるようになることです。そのためには、多くの知識を学び、それらを関連付けて知識のネットワークを築くことが重要です。また、理解したことを的確に説明するためには生物用語を正しく使えるようになることも必要です。これらは、やがて疾病のメカニズムを理解し説明できることにつながるはずですが、評価では、問1（予習）と問4（復習）のポイントの低さは相変わらずですが、問7（学習意欲）のポイントが高いことは嬉しく思います。今年度は、担当教員が1名減の2名となりましたが、従来通りの講義は提供できたと思っています。総合評価（4.3）は昨年度より0.4ポイント増でした。

科目名：医用物理学（医学科第1学年通年／必修）

履修者数：108 配付数：108 回収数：98 回収率：90.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.4	4.0	3.5	4.0	3.9	3.8	4.0

＊評価に対するコメント

医用物理学 担当教員

総合評価（問8）は、受講生に物理（高校分野）の得意な学生、不得意な学生、及び未履修の学生がいる中、4（過去最高の評価）であった。素直にうれしい。個別の評価（問1～7）も過去最高であったことから、多くの学生が興味を持って積極的に取り組んでくれたものと推察する。今年度頂いた評価を維持しつつ、更に興味を抱いてもらえるよう改善に努めます。担当して頂いた先生には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

科目名：基礎化学（医学科第1学年通年／必修）

履修者数：107 配付数：88 回収数：80 回収率：90.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.5	4.0	3.3	3.3	2.9	3.0	3.2

＊評価に対するコメント

基礎化学 担当教員

講義内容について幅広い感想が見られますが、以下の事項を理解して下さい。

- ・「基礎化学」では、医学の基礎を理解するために、「基礎医学を学ぶ前に必ず」学習すべきことを教えています。
- ・「基礎化学」の内容は、高等学校の「化学」とよく似ていますが、概念を深く掘り下げ、他分野とも連結する広範なものです。高校とは「根本的に違う」と思って下さい。
- ・化学は現象を具体的に詳細に扱う特徴がありますが、「基礎化学」では基本となる少数の基本原理を学び、それらを単純な論理で結びつけることで物質はもちろん生体内の現象も理解できることを学びます。「暗記科目」ではありません。背景や理由を理解せずに言葉を表面的に記憶するのでは「基礎化学」を理解できません。成績に大きく影響しますので、くれぐれも誤解のないように。
- ・「講義資料」はページ数が多いですが、記憶することが多いものではありません。始めに説明している基本原理を理解すれば、その後の資料はたやすく自力で理解できます（つまり、「要点」は始めに全て説明されています）。この点を誤解する人が毎年いて、成績にも悪影響を及ぼします。十分注意して下さい。
- ・「講義資料」は補助資料に過ぎません。教科書と講義の両面から理解し、必要なら教員に質問したり図書館やネットで調べるとするのが本筋です。「講義資料」を「教科書」と勝手に誤解しないように。「講義資料」には「論理の流れ」は書かれていません。このことを理解できていないとよい成績には結びつきません。論理的に理解することが重要です。

以上のことを正しく理解し、（質問や相談が）必要なら迷わず行動できる人は皆良い成績を取めることができます。大学の科目、特に自然科学系の科目を習得するには、日常的な努力の積み重ねに加えて、思考力と行動力の大きな成長が鍵となります。皆さんが大学生にふさわしい思考力と行動力を一日も早く発揮してくれるよう、大いに期待しています。

科目名：発生遺伝学（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：108 配付数：106 回収数：96 回収率：90.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.7	3.9	2.7	3.5	3.5	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

発生遺伝学 担当教員

総合ポイントは3.9(昨年度3.8)でした。本科目は15コマ1単位の、時間枠の小さな講義科目ですが、内容はヒトの発生と遺伝の基礎から先天異常や遺伝性疾患のメカニズムにまで及んでいます。初年次の科目ですが、学修到達目標は高いレベルに設定しています。そのため、資料を配付するなどして学生に予習と復習を求めています。しかし、関連項目(問1と問4)のポイントが示すように、主体的学修の状況は必ずしも期待通りではありませんでした。一方、出席状況(問2)は良好であり、科目の重要性は理解しているようです。学生から、講義の進め方や扱う内容について意見が寄せられました。講義は学生のものであることを認識し、それらの意見を次年度の授業改善に生かしたいと考えています。

科目名：分子生物学（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：108 配付数：90 回収数：77 回収率：85.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.5	4.1	3.3	3.6	3.5	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

分子生物学 担当教員

コーディネーターが変わったことによって教員間の連携がスムーズに行くかどうかを少し心配していましたが、各問に関しては昨年度とほぼ同様の評価であったことから、概ね講義は順調に進んだものと考えています。分子生物学は進歩の早い分野でもありますので、基本を押さえつつ、最新の話題もできるだけ提供できるように講義を工夫していきたいと思います。また、manabaをより積極的に活用し、レポートや小テストを行うなど、コンテンツの充実をはかって学習を支援していきたいと考えています。

科目名：医学英語ⅡA（医学科第2学年通年／必修）

履修者数：132 配付数：129 回収数：109 回収率：84.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.3	3.9	3.2	3.6	3.6	3.6	3.6

＊評価に対するコメント

医学英語ⅡA 担当教員

医学英語の読解力を培うとともに、医学英語論文の構成に基づく読解ができるようになることを意図していました。毎回の授業課題にしっかり取り組んでくれたという印象を持っています。入試経路の多様化を考慮し、課題の量を調整したため、少し物足りないといった印象を持った学生さんもいたようです、今後対応を考えていきます。

科目名：医学英語ⅡB（医学科第2学年通年／必修）

履修者数：132 配付数：132 回収数：113 回収率：85.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.4	4.0	3.1	3.6	3.6	3.6	3.9

＊評価に対するコメント

医学英語ⅡB 担当教員

I appreciate the comments from the second year medical students. Students showed a high command of English in their ability to communicate with me and with each other. As future doctors they will need this ability in international conferences and when speaking to non-Japanese doctors here in Japan. They will also need English to analyze research written in English. The second year students already have a good command of English, but I hope they will continue to improve their English abilities. From what I have seen of the second year students, I am confident they will become doctors with high levels of English proficiency.

科目名：医療概論Ⅱ（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：133 配付数：131 回収数：110 回収率：84.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.0	3.5	2.9	3.5	3.7	3.5	3.7

＊評価に対するコメント

医療概論Ⅱ 担当教員

医学の進歩や社会の変化に伴い、医療や医学研究への倫理的な対応についての考え方も変わっていきます。今回のこのコースで学んだことを基礎にして、それらの変化をアップデートして行って下さい。

科目名：機能形態基礎医学Ⅱ（医学科第2学年通年／必修）

履修者数：134 配付数：133 回収数：112 回収率：84.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	3.8	3.7	3.2	3.4	3.2	3.8	3.8

＊評価に対するコメント

機能形態基礎医学Ⅱ 担当教員

科目名：病理学（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：133 配付数：131 回収数：101 回収率：77.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.2	3.8	3.3	3.5	3.3	3.8	3.8

＊評価に対するコメント

病理学 担当教員

講義日程が過密であること、講義終了後から期末試験までの期間が短いことに対する不満が多くみられた。これに関しては新カリキュラムで改善したいと考えている。今後は学生の理解が進むように、できるだけポイントを押さえた講義を心がけていきたい。

科目名：微生物学（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：133 配付数：133 回収数：119 回収率：89.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.0	3.7	3.0	3.4	3.5	3.7	3.9

＊評価に対するコメント

微生物学 担当教員

医学部における微生物学は、細菌とウイルスの性状・発症病理・臨床像・疫学・診断法・予防・治療法について学習するため、その範囲は非常に多岐に渡ります。そのため、病原細菌・ウイルスに関し、今後も自立学習をしていただきたいと思っております。また、次年度以降もスライド、図、グラフ等を用いて学生の知識欲を高める講義にしたいと考えています。

科目名：寄生虫学（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：133 配付数：133 回収数：102 回収率：76.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.0	3.5	2.9	3.0	2.9	2.9	3.1

＊評価に対するコメント

寄生虫学 担当教員

寄生虫学は中間宿主、終宿主、媒介生物など多種にわたる生物の複雑な相互関係を学ばなければなりません。そのため、文章のみでは説明しづらい箇所は、図などを多用し講義を行っています。また、動画も多用し、より深く理解してもらうように務めています。学生の皆さんには、知識がなければ現場で応用できないため、基礎的な知識の習得を心がけて欲しいと思います。今後も、学生の知識欲を高めるような講義にしたいと考えています。

科目名：薬理学（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：133 配付数：121 回収数：33 回収率：27.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.5	3.7	2.7	3.1	3.0	3.2	3.3

＊評価に対するコメント

薬理学 担当教員

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としています。少ないコマ数で、様々な疾患に使用される薬物の薬理作用を講義しているため、細かい説明が不足し、理解しにくいこともあったかもしれません。コメント頂いた講義に対する希望については、manabaを活用するなどにより実現していきたいと考えています。しかし、どの診療科でも薬物は使われますので、日頃から、薬物がどのようにして効いているのか考える習慣をつけて下さい。きっと役に立つと思います。

科目名：基礎医学特論（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：133 配付数：110 回収数：47 回収率：42.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.0	3.2	2.4	3.1	3.1	3.2	3.4

＊評価に対するコメント

基礎医学特論 担当教員

基礎医学特論は、基礎医学講座の各講座の研究内容についてそれぞれの講師に紹介してもらおうオムニバス形式の講義として実施しました。内容が多岐にわたり、また、最新の研究内容の紹介であるため、理解が難しいのではないかと心配しましたが、科目全体に対する満足度は3.4でした。研究内容を深く理解することは困難だと思われませんが、いろんな分野の講義を聴くことで、基礎医学研究の重要性を認識してもらえれば、と思います。

科目名：医療概論Ⅲ（医学科第3学年通年／必修）

履修者数：118 配付数：116 回収数：86 回収率：74.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.2	3.6	2.9	3.6	3.6	3.6	3.7

＊評価に対するコメント

医療概論Ⅲ 担当教員

医療概論Ⅲは、医事法制、ワークライフバランス、補完医療である漢方医学で構成されています。特に漢方については、昨年の授業評価の結果から「内容にばらつきが生じている」ことが明らかになり講師間での情報の共有を図ることで改良が加えられました。漢方独自の診察方法を学ぶ「証」の実習時間は、安定した高い評価を得ています。漢方は国家試験問題として出題されていることもあり、今後とも試験と出席状況で評価していく方針です。

科目名：腫瘍学1（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：118 配付数：118 回収数：101 回収率：85.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.3	3.7	3.2	3.2	3.2	3.3	3.3

＊評価に対するコメント

腫瘍学1 担当教員

例年と同様の試験を行ったが、試験中に複数の問題の選択肢にミスが見つかり、数回にわたり訂正することになった。これはコーディネーターによる最終確認が不足していたことによるもので、学生諸君に迷惑をおかけしたことをお詫びしたい。来年度はこのようなことがないようにしたい。また、講師の先生方と腫瘍学1の全体構成について打ち合わせを行い、より魅力ある科目にしていきたいと考えている。

科目名：生体調節医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：118 配付数：115 回収数：71 回収率：61.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	3.8	3.6	2.9	3.5	3.6	3.6	3.7

＊評価に対するコメント

生体調節医学 担当教員

生体調節医学は、糖尿病、内分泌、腎泌尿器疾患に関して、内科学講座循環・呼吸・神経病態内科学分野、病態代謝内科学分野、泌尿器科、小児科、耳鼻咽喉科の各所属教員により開講されている。予習・復習・宿題に関する学生自己評価は、それぞれ3.0、2.9点と低い。学ぶ疾患数が多いため、自学自習の必要性もあり、次年度からはmanabaを活用しての講義体制も検討したい。

科目名：生体防御医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：87 回収率：72.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.0	3.6	3.1	3.5	3.6	3.7	3.7

＊評価に対するコメント

生体防御医学 担当教員

血液疾患、感染症、自己免疫疾患を扱う本コースは、臨床医学でも重要な位置を占めることは間違いない。全体として評価は3.7であり改善の余地がある。気になるのは、予習したか？復習したか？の項目が3.0、3.1と低いことであり自発的な学習が十分でないことを危惧する。

科目名：精神・神経病態医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：42 回収率：35.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.6	4.1	3.9	3.6	3.8	3.8	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

精神・神経病態医学 担当教員

全体としてアンケート回収率が35%と低く、アンケート回収率をアップさせるべきである。学生の評価として判断することは困難である。全体として3.9と良好な評価であったが、改善余地はありと考えられる。

科目名：感覚器病態医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：70 回収率：58.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.6	4.2	3.8	3.5	3.6	3.4	3.8	3.7

＊評価に対するコメント

感覚器病態医学 担当教員

本科目は、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、歯科口腔外科の4科の講義で構成されている。
問2の評点が高い一方、問4と6の評点は低い。ぜひ予習復習の習慣を身につけてもらいたい。本科目は各講義の専門性が高く、教官が工夫しており、問2, 3, 7, 8は高評価を得たことは、教員として嬉しく受け止めているところである。

科目名：生殖発達医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：119 配付数：118 回収数：51 回収率：43.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.1	3.9	3.5	3.7	3.5	3.7	3.7

＊評価に対するコメント

生殖発達医学 担当教員

授業への出席率が高く、産婦人科、小児科、泌尿器科など多数の診療科がオムニバス形式で行う授業であるが、満足度の結果からはある程度本企画が評価されているものと判断する。学生のコメントにあるように試験日程に関しては、今後検討する予定である。

科目名：臨床遺伝学コース（医学科第3学年後期／選択必修）

履修者数：7 配付数：7 回収数：3 回収率：42.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.3	5.0	5.0	4.0	4.3	4.7	5.0	5.0

＊評価に対するコメント

臨床遺伝学コース 担当教員

臨床遺伝学は、講義はできるだけ少なくしており、情報の収集、伝達の方法について、患者さんの立場と医師の立場を経験できるよう構成されています。ロールプレイセッションでは、医療面接でのBad Newsの伝え方から始まり、患者さんのオートノミーに配慮した医療面接のあり方を体験してもらっています。それ以外には、家系図の書き方や遺伝情報の調べ方などの演習を組み合わせています。

「非常の学びの多い授業でした」「とても満足度の高い有意義な授業でした」「是非とも後輩に受けてほしいです」などうれしいコメントをいただきました。今年の評価は、昨年度の4.5とよりあがり5.0（回収率が半分なので参考値です）でした。

科目名：生体構造機能蛋白・病態解析コース（医学科第3学年後期／選択必修）

履修者数：91 配付数：82 回収数：26 回収率：31.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.3	3.6	2.9	3.5	3.5	3.6	3.9

＊評価に対するコメント

生体構造機能蛋白・病態解析コース 担当教員

問8の総合評価では3.9をいただきました。科目内容では問6で示した難易度で3.5、問7で示した学習意欲は3.5と評価をいただきました。これからもう少し難度をアップすることで、最新の知識など授業内容に工夫を重ね、学習意欲が高まるように配布資料や授業方法の改善に取り組みます。これからも病態解析に関わる先端的のデータなどを紹介して学生の興味を高めるように努力いたします。

科目名：救急・プライマリーケアコース（医科第3学年後期／選択必修）

履修者数：20 配付数：20 回収数：16 回収率：80.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.1	5.0	4.4	4.4	4.5	4.4	4.9	4.9

＊評価に対するコメント

救急・プライマリーケアコース 担当教員

本コースは、3学年を対象に少人数で、できるだけプラクティカルな講義と、参加者自身が自分で考える機会を設けることを主旨として行っております。例年希望者が多く20名限定ということで設定し、今年度もプライマリーケアの基礎知識と実際を学ぶことができたという、非常に高い評価を頂きました。

今後も、実践的な診療・処置の習得を主眼に、より中身の濃いものにしていきたいと考えております。

科目名：睡眠医学コース（医学科第3学年後期／選択必修）

履修者数：34 配付数：34 回収数：16 回収率：47.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.3	3.8	3.3	3.7	4.0	3.8	3.5

＊評価に対するコメント

睡眠医学コース 担当教員

睡眠への関心の高まりとその重要性が認識されつつある現代社会において、本コースのような睡眠医学に関する系統だった教育は全国医学部においても稀有である。受講した学生より提出されたレポートの水準は高く、今後、さらに洗練された最先端の講義内容を展開したい。

科目名：感覚器医学の最先端コース（医科第3学年後期／選択必修）

履修者数：75 配付数：66 回収数：24 回収率：36.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.7	3.9	3.3	3.7	3.9	3.8	3.8

＊評価に対するコメント

感覚器医学の最先端コース 担当教員

感覚器医学の基礎・臨床、そして最先端まで各領域の専門科が講義した。学生による評価では、出席に関しては4と5のみで、評価表の回収率も36%台と講義に対する意識は向上していたが、予習・復讐に関してはスコア1、2もあり、能動的に学習しようとする意識はみえてこない。難易度と総合評価では4を中心としていたものの学習意欲では2の評価もあり、今後の学習意欲向上につながる有意義な講義となるよう心掛けたい。

科目名：EBM・CPCコース（医科第3学年後期／選択必修）

履修者数：9 配付数：9 回収数：2 回収率：22.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0	5.0	5.0

＊評価に対するコメント

EBM・CPCコース 担当教員

開講し14回目を迎えた。前半をEBMコース、後半をCPCコースで構成し、即臨床実習・研修で役立つ生きた知識・考え方を習得出来るよう心がけた。本年度の選択者は9名と例年より少し受講者が多く皆学習意欲が強く、個々の学生へ対応を密に行うことが出来、各自が積極的に取り組み順調に進んだ印象である。総合評価は回収率が低く信憑性が薄い例年同様5点満点で満足できるものであり、来年以降も同様な構成でコースを進める。

科目名：臨床薬理学コース（医科第3学年後期／選択必修）

履修者数：89 配付数：84 回収数：28 回収率：33.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.6	3.6	3.0	3.7	4.1	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

臨床薬理学コース 担当教員

臨床薬理学は、第2学年で学習した基礎薬理学の原理を、臨床に応用する際に必須となる分野である。本コースでは、その理解のために、薬物の投与方法から薬物療法の問題点に至るまで、臨床の各分野で御活躍の先生に、その専門分野の講義を行って頂いた。今後も各科の先生に御協力頂き、さらに臨床薬理学の理解に寄与するコースにしていきたいと考えている。

科目名：ニューロサイエンスコース（医学科第3年後期／選択必修）

履修者数：15 配付数：15 回収数：9 回収率：60.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.7	5.0	4.7	4.0	4.2	4.5	4.7	4.7

＊評価に対するコメント

ニューロサイエンスコース 担当教員

本年度の「ニューロサイエンスコース」の受講学生は15名であり、例年よりも低い受講率であった。うち、6名の学生(40%)から有効なアンケート結果が得られ、この科目は満足できる(4.7/5.0満点)との高評価を頂いた。しかし、9名の学生(60%)からは肯定的にも否定的にも意見は得られなかったことから、本科目に対する学生の興味は極めて薄い(無関心)と考えられる。今後、本科目開講の必要性を問う必要がある。

科目名：糖尿病・内分泌 Up-Date コース（医学科第3年後期／選択必修）

履修者数：14 配付数：14 回収数：4 回収率：28.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.0	3.7	3.3	3.7	3.7	3.7	3.7

＊評価に対するコメント

糖尿病・内分泌 Up-Date コース 担当教員

糖尿病・内分泌疾患に関連した最先端医学知識を、解剖学、生化学、薬理学、内科学、小児科学、産婦人科学、泌尿器科学、整形外科学、眼科学、臨床検査医学の多角的視点から学習する選択コースである。昨年度より、受講対象は3年生のみとなっている。出席率とともにレポートを評価項目に含むためか、受講者数は14名、そのうち3名からの学生評価である。評価項目、回収手順について再考予定である。

科目名：英語 I A（看護学科第1学年通年／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：58 回収率：98.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.9	4.1	4.0	3.6	3.9	3.9	3.5	3.8

＊評価に対するコメント

英語 I A 担当教員

全体的に授業での演習に熱心に取り組んでいました。今年度は演習に使う英文の語数を増やしたこともあり、最初は大変だったと思いますが、後半は読解のスピードも上がっていました。普段の生活において中々英語に触れることがないかもしれませんが、少しでも意識しておくことが語学のトレーニングには大切ですので頑張ってください。皆さんから頂いたコメントを見ますと、扱うテーマの工夫やグループワークをもっと取り入れていくべきだとも感じています。来年度以降も英語力を高めることを期待しています。

科目名：英語 I B（看護学科第1学年通年／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：58 回収率：98.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.0	4.2	3.3	4.0	3.9	3.7	4.1

＊評価に対するコメント

英語 I B 担当教員

I would like to thank the first year nursing students for their encouraging comments. This year's class of nursing students impressed me with their hard work and enthusiasm. Learning English requires students to be actively involved in class activities and everyone did their utmost when participating in pair work and group work activities. There are many opportunities in the field of health care which can only be realized by acquiring English proficiency. I hope the first year nursing students will continue to work hard and improve their English skills as they move towards graduation.

科目名：人間生涯発達論（看護学科第1学年通年／必修）

履修者数：61 配付数：49 回収数：43 回収率：87.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.3	4.0	3.9	3.9	4.2	4.0	4.0

＊評価に対するコメント

人間生涯発達論 担当教員

2019 カリキュラムの新規開講科目で、受精から老年期までを一貫して、発達の視点から人間を理解しようとするものである。全体として平均 3.9、科目全体の満足度 4.0 と良い評価であった。学生自身は毎回出席（4.3）し、授業内容を理解しようと努力している（4.0）。問4の復習・宿題は行っている（3.9） ようだが、問1の事前準備としての予習が 2.6 と低かった。学生の予習意欲が高まるよう事前学習課題などを検討する。

科目名：地域包括ケア論 I（看護学科第1学年通年／必修）

履修者数：61 配付数：60 回収数：56 回収率：93.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	5.0	4.5	4.3	4.4	4.4	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

地域包括ケア論 I 担当教員

2019 カリキュラムから開講の本科目は、地域活動に参加し地域住民と交流を図りながら地域包括ケアの実践者を目指して学習を進めています。学外活動も多く、希望の活動に参加できなかったりスケジュール調整が難しかったりと、座学とは違う課題もありました。教員も試行錯誤しながらのスタートでしたが、地域の皆さんと旭川医科大学学生に繋がりができ、今後の活動が期待されています。トップランナーの学年として良い授業にしていきたいと思います。

科目名：形態機能学（看護学科第1学年通年／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：58 回収率：98.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.1	3.7	3.3	3.4	3.3	3.9	3.9

＊評価に対するコメント

形態機能学 担当教員

学生の評価は例年に比べやや低かった。それに伴い自由記載での要望・提案が例年より多くあり、可能な限り対応していきたいと考えている。その中で、講義資料の（manaba 上での）公開期間を限定しないでほしいとの要望があった。講義資料はダウンロードすることを前提に公開しているが、ダウンロードせず、モニタで見るだけの学生がいるようである。一度ネット環境の「基本的な」使い方を説明する必要があると思っている。

科目名：病理学総論（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：61 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.3	4.0	3.7	4.0	4.2	4.3	4.4

＊評価に対するコメント

病理学総論 担当教員

この科目は、従来2年生で開講していた旧カリキュラム病態学の総論部分を、1単位の科目として独立させたものでした。また旧カリキュラム感染免疫学の免疫学含まれています。旧カリキュラムの内容を引き継いで、manabaに確認ドリルを用意し、知識の定着をはかる構成にしました。開講の時期として早い可能性を危惧していましたが、全体の満足度についての評価ポイント4.4と比較的高く、試験の結果も良好でしたので、適切な企画であったと考えています。次年度は、より効率よく学べて、達成感の得られるような内容を心掛けて、講義を企画したいと思います。

科目名：生化学（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.5	3.9	3.7	4.0	4.1	4.2	4.3

＊評価に対するコメント

生化学 担当教員

本学科は、旧カリキュラム代謝栄養学の生化学領域と感染免疫学の分子免疫学領域を1単位の学科として独立させた内容になります。アンケートの結果は、従来の代謝栄養学とほぼ同じで、難易度など含め適切な内容であったと思われます。次年度も本年度同様、わかりやすい講義・構成を心掛けたいと思います。

科目名：感染制御学（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.3	3.8	3.4	3.9	4.0	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

感染制御学 担当教員

本科目は、旧カリキュラムの感染免疫学の大部分を受け継ぐ新しい科目でしたが、難易度に関するスコア・全体的な満足度について、旧カリキュラムと同程度の評価でした。細菌学やウイルス学という基礎的な内容に、感染管理という臨床的な内容も加えたところ、実習に活かせる内容とのコメントもあり、適切な企画であったと考えています。今後も改善を加え、より良い企画にしたいと思います。

科目名：臨床心理学（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：55 回収数：50 回収率：90.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.1	3.8	3.1	3.8	4.1	3.9	4.1

＊評価に対するコメント

臨床心理学 担当教員

比較的評価の高い問6や問8については、具体的な事例を紹介したり、実際の心理テストや心理療法に取り組んでもらったことが評価されたものと考え、今後も取り入れて行きたいと考えています。評価が低かった問1については、今後は授業内容に関連する文献や論文なども紹介しながら、事前に予習出来るきっかけになるような工夫をしていきたいと思っています。

科目名：基礎看護技術学Ⅱ（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：57 回収率：95.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.7	4.9	4.8	4.9	4.2	4.0	4.6	4.5

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅱ 担当教員

予習・出席・復習などの評価は高く、教員と一致するところです。実技試験の担当教員は常勤、非常勤偏りなく配置しています。また、細かい基準を設け評価しています。実技はその時の状況により微妙に異なります。安全安楽な援助が提供できるよう点数にかかわらず、練習を継続しましょう。課題の提出時期等に関して賛否様々な意見がありました。時間割など変えられない部分もありますが、今後検討したいと思います。

科目名：地域看護学（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：58 回収数：58 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.6	4.1	3.9	4.1	4.2	4.3	4.1

＊評価に対するコメント

地域看護学 担当教員

さまざまな看護活動が行われている場ならびに看護職の役割について理解が深まったことから将来、地域医療に貢献できるようにしたいなど、今後の学習の動機づけになったようです。

科目名：英語Ⅱ A（看護学科第2学年通年／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：59 回収率：96.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.7	4.2	4.3	3.5	4.0	3.9	3.8	4.1

＊評価に対するコメント

英語Ⅱ A 担当教員

受講者が各自のペースで課題に取り組み確認テストを受験することにより学習到達度を確認する授業スタイルに変更して4年目となりました。今年の受講者も非常に熱心に課題に取り組み、計画的に学習していました。来年度からは開講期が変わります。さらに有意義な学習になるよう工夫したいと思います。

科目名：英語Ⅱ B（看護学科第2学年通年／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：61 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.0	4.0	3.5	4.1	4.1	3.9	4.2

＊評価に対するコメント

英語Ⅱ B 担当教員

I am glad that most nursing students seemed to enjoy English, and to find our class of value. For nurses, English is not the most important subject, but English ability is certainly an asset for health care professionals. It is a privilege to teach future nurses. Nursing is an essential and noble profession, and nurses are very special people. I understand this well, because there are many nurses among my own family and friends. When people hear that you are a nurse, they know immediately that you are intelligent, hard-working, dedicated, kind, and trustworthy. I hope that each of our students will become the best nurse he or she can be, and be proud to wear the title "nurse".

科目名：薬理学（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：60 回収数：40 回収率：66.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.5	3.4	2.7	3.4	3.3	3.4	3.7

＊評価に対するコメント

薬理学 担当教員

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としています。非常に少ないコマ数で、様々な疾患に使用される薬物の薬理作用を講義しているため、進行スピードが速く、細かい説明が不足し、理解しにくいこともあったかもしれません。これから履修する学生は、講義中の理解を深めるために予習を心がけてください。しかし、どの診療科でも薬物は使われますので、日頃から薬物がどのようにして効いているのか考える習慣をつけて下さい。きっと役に立つと思います。

科目名：疾病論Ⅰ・Ⅱ（看護学科第2学年前期・後期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：61 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	3.8	3.5	2.9	3.8	4.0	4.2	4.4

履修者数：61 配付数：61 回収数：60 回収率：98.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.1	3.6	3.1	3.7	3.8	3.9	4.2

＊評価に対するコメント

疾病論Ⅰ・Ⅱ 担当教員

本年度は、例年同様の講義順序で、全体の満足度の評価は、例年並みの得点でした。ほぼ適正な企画であったと考えています。本学科は、次年度より新たに臨床病態治療学として生まれ変わりますが、これまでの経験をもとに、より充実した内容を企画したいと思います。

科目名：公衆衛生論（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：53 回収率：86.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.2	3.4	2.8	3.4	3.6	3.4	3.7

＊評価に対するコメント

公衆衛生論 担当教員

今年度は、学生からの不満・コメントがほとんどなく、どのような評価であったかの判断が難しいところではありますが、講義の理解度が2と評価した者が1名いたのでこれを0にする必要があると思いました。また、学生の講義に対する満足度は3.7でしたが、これを4以上にするのが今後の課題です。次年度は講義の内容をさらに見直していきたいと思います。

科目名：看護倫理（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：60 回収数：54 回収率：90.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.0	4.8	4.5	4.3	4.0	4.2	4.4	4.3

＊評価に対するコメント

看護倫理 担当教員

評価は設問すべてが4以上であり、一定の成果はあったと言えます。自由記載に有益なコメントをいくつかいただきましたので、今後の授業に活かしていきます。看護実践は倫理的基盤のもとに行われるものです、倫理（あるいは看護倫理）のないところに看護実践は存在しません。それは看護とは呼べないからです。皆さんには常に看護倫理の内在する看護実践を期待します。

科目名：看護理論（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：59 回収率：96.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.5	4.9	4.4	4.1	3.9	3.7	3.9	4.1

＊評価に対するコメント

看護理論 担当教員

昨年度はすべて4以上でしたが、今回は到達目標、難易度、学習意欲について3台の評価となりました。自由記載で指摘のあった実習の前後の課題遂行やmanabaでの資料提示のタイミング等、次年度は改善を図りたいと考えています。

科目名：成人看護学Ⅰ（看護学科第2学年通年／必修）

履修者数：61 配付数：60 回収数：52 回収率：86.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.6	4.0	3.8	3.5	3.4	3.6	3.5

＊評価に対するコメント

成人看護学Ⅰ 担当教員

問4～8の評価が3.5前後と例年の4点前後に比べ低い傾向でした。

難易度は、例年の成人看護学Ⅰの内容と変更していませんが、予習が不十分なため理解につながらなかった可能性があります。評価の低い予習について、その内容を明確に指示するなどして、授業準備をした状況で講義が受けられるようにする必要がありますと思いました。

科目名：小児看護学（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：57 回収率：93.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.4	4.1	3.6	3.9	4.0	4.2	4.3

＊評価に対するコメント

小児看護学 担当教員

問1「予習」3.1、問4「復習」3.6であり、学生の自己学習に関する項目が極端に低い結果となりました。また、その影響もあるのか、問5「到達目的の最終達成」3.9と他の項目と比べて低い結果となりました。しかし、問7「学習意欲」や問8「満足」は4.0台であり、学生にとって概ね満足できる内容であったと考えます。今後は学生の主体性や自主性をもっと発揮できるような授業内容を検討していきたいと考えております。

科目名：高齢者看護学Ⅰ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：56 回収率：91.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.3	3.8	3.6	3.7	3.9	3.7	3.8

＊評価に対するコメント

高齢者看護学Ⅰ 担当教員

全体として3点台後半の点数であった。レポート課題が多いとのコメントがあった。文献を調べたり、膨大な時間が掛かる課題を課しているわけではなく、自身の考えを整理するためのものがほとんどなので意図と必要性を理解していただきたい。ただ、試験期間に近い時期にならないよう配慮したい。

科目名：母性看護学（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：55 回収数：39 回収率：70.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.7	4.2	3.8	3.8	3.7	4.1	3.9

＊評価に対するコメント

母性看護学 担当教員

学習意欲や満足度は4.1点、3.9点と、一定の評価が得られたと評価する。次年度も同様の評価が得られるよう、引き続き講義内容をより洗練して提示し、満足感の得点を4点台にできるよう努力する。設問中、事前の予習をしたかに対する得点3.4点で最も低く、授業の難易度も3.7点で“やや難しい”という印象を持たせたことが推察される。そこで、次年度はmanabaをより活用し、予習箇所への提示等をより積極的に実施していきたい。

科目名：精神看護学Ⅱ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：53 回収率：86.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.1	3.9	3.3	3.8	3.9	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

精神看護学Ⅱ 担当教員

全体的な評価としては、学生のみなさんにある程度の内容は学んでもらえたのかと評価しております。一方で、予習をしてもらえるような工夫に関しては来年度に向けての課題であり、資料も多く提示しているので、その連動で学びを深められるように考えています。また、障害の理解はしっかりできるように実習してもらいたいため、知識と看護のつながりも理解できる内容にしていきます。

科目名：看護研究Ⅰ・Ⅱ（看護学科第3学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：55 回収数：47 回収率：85.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.6	4.0	3.5	3.6	3.4	3.4	3.2

＊評価に対するコメント

看護研究Ⅰ・Ⅱ 担当教員

看護研究は、Ⅰで研究の基礎を学習し、Ⅱではこれまで学んできたことを踏まえて、研究計画書を作成方法を習得することが目標となります。本年度は前任者の照井先生から引き継いだ最初の年でしたが、研究を行うことに対する学生の意識を高めるには至らず、看護研究Ⅱで何をしようかわからなくなったとの意見も見られました。次年度は、これらを反省材料として研究方法について必要な知識を十分に身に着けるようカリキュラムを見直して講義・演習に臨みたいと思います。

科目名：卒業研究（看護学科第4学年通年／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：43 回収率：72.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.7	4.5	4.2	4.0	3.9	4.1	4.2

＊評価に対するコメント

卒業研究 担当教員

卒業研究は、看護学科における4年間の学習の総まとめであることもあり、卒業研究に臨む学生の姿勢は非常に高いものがあつたと思います。一年間の期間を通して、担当教員を決める時期をもう少し早くしてほしいとの意見があつたが、その他の問題については大きな問題もなく学生の満足度も比較的高いものであつたように思います。次年度は3年生の担任がコーディネーターを担当するので、必要な情報を引き継ぎ役割を終えることができました。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。
	問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。
	問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。
	問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。
	問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。
	問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。
実習（演習）内容	問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。
	問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。
	問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。
	問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。
	問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。
実習（演習）環境	問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。
	問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされてきましたか。
総合評価	問17 学生の人権に対する配慮がなされてきましたか。
	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う （非常に良い）
 ④ やや思う （良い）
 ③ どちらとも言えない （普通）
 ② あまりそう思わない （あまり良くない）
 ① 全くそう思わない （良くない）

科目名：統計学実習（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：106 配付数：104 回収数：101 回収率：97.1%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.7	4.8	4.3	4.4	4.6	4.6	4.6	4.2	4.5	4.4	4.2	4.2	4.4	4.2	4.4	4.5	4.5	4.4

*評価に対するコメント

統計学実習 担当教員

Your satisfaction with the lecture was low, a rating of 4.4; for example, the previous rating was 4.7 or higher. Since there is no comment, it is unclear what point should be improved. As for the outcome of the reports, you have been working on issues carefully. You can study past reports, but there are not many reports with individuality. We should be more free to express what we have learned. Thank you.

科目名：基礎化学実習（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：107 配付数：106 回収数：105 回収率：99.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.9	4.6	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.2	4.4	4.3	4.1	3.6	3.9	4.3	4.5	4.4	4.1

＊評価に対するコメント

基礎化学実習 担当教員

他の実習とは異なり、基礎化学実習では反応性の高い危険な試薬を用いた実験を行います。1年生の皆さんは化学薬品やガラス器具・秤量／測定機器の取り扱いに慣れていませんので、毎回の実験前に1.5～2時間程度の時間を使い、安全教育（試薬の扱いや化学物質の廃棄の仕方、器具の扱い方、万が一事故が起きたときの対処方法など）と秤量／測定機器の取り扱いを説明しています。これにより、皆さんの理解も深まり、安全に実験を進めることができています。さらに基礎化学実習では自然科学に取り組む基本的な態度を学習・経験する機会でもあります。そのなかでも、レポート提出はとても重要です。授業評価の項目の中でレポートの内容や量が多すぎるといった評価が毎年寄せられていますが、皆さんには常識的な範囲でレポート提出を課しています。また、レポート最終提出締切りが試験期間内に設定されていることを問題視するコメントも毎年寄せられていますが、実習の中で最終提出締切りに全てのテーマのレポートを提出するのではなく、毎週提出するか数回に分けてレポート提出するように頻繁に指導しています。実際にそのようにレポート提出をしている一定数の方々がいらっしゃいますので、全体的外れなコメントと言わざるを得ません。医学部は他学部より短い時間で、多くのことを学習しなければならないという現実をよく理解して行動していただきたいと思います。

科目名：心理・コミュニケーション実習（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：106 配付数：106 回収数：95 回収率：89.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.8	4.3	4.2	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.1	4.0	4.1	3.4	4.1	4.1	4.4	4.4	4.2

＊評価に対するコメント

心理・コミュニケーション実習 担当教員

本実習は、介護施設でのユマニチュード実習、心理学実習、模擬患者実習により構成されている。本年度の学生の満足度は4.2、実習全般の評価は4.0-4.3となり、どちらも昨年度より上昇した。一方、学生自身の受講態度は4.3となり、昨年度と比べて低下した。これらの原因として考えられる要因のひとつは、本年度に実習内容を負担軽減の方向に沿って見直したことである。全体的な負担が軽減した結果、実習自体の評価は上昇し、学生の受講態度は下降したのかもしれない。しかし、負担軽減にもかかわらず、本年度のレポート分量の評価は昨年度よりも低下した。したがって、今後はレポート課題の本格的な削減について検討する必要があると思われる。

科目名：形態学実習Ⅱ（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：133 配付数：133 回収数：119 回収率：89.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.3	4.7	4.6	4.6	4.6	3.1	4.5	4.2	4.6	4.6	4.3	4.2	4.4	4.6	4.4	4.6	4.6	4.6

＊評価に対するコメント

形態学実習Ⅱ 担当教員

全般的には例年通りの評価を得ていると考えている。問6の指導教員の数の評価が低かった。今年度は教員の欠員と産休が重なり、2人だけで指導していたことが多かった。学生の人数が多かった中で、十分な指導人数が確保できなかった点はお詫びしたい。次年度以降は4人体制に戻る見込みである。今後もAV教材の充実も含めて努力していくが、学生自身の努力も期待する。

科目名：医療社会学実習（医学科第2学年通年／必修）

履修者数：132 配付数：130 回収数：80 回収率：61.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.9	4.8	3.9	3.5	4.0	3.2	3.2	3.1	3.3	3.2	2.7	3.0	2.8	2.5	3.5	3.8	3.8	2.6

＊評価に対するコメント

医療社会学実習 担当教員

グループ発表の内容や提出物などを評価したところ、各グループが調査を実施して成果を出したことが改めて伝わってきました。履修した学生のコメントを読むことで、第2学年は調査に集中しづらい時期であること、グループの一部のメンバーに負担が集中しがちであることなどがわかりました。このような問題にできる限り対応することで、今後も医療社会学や質的調査への理解が深まる実習を実施していきたいと考えています。

科目名：生体観察実習（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：58 回収率：98.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.8	4.5	4.2	4.4	4.3	4.3	3.7	4.3	4.4	3.8	4.1	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

生体観察実習 担当教員

生体観察実習は例年通の評価で満足している。一部の实習で説明を詳しくしてほしいとの要望があった。関連する教員と協議の上、対応していきたい。解剖実習見学についてももっと見学時間、回数がほしいとの要望が出ていた。現在の体制では回数の増加は難しいので、密度の高い実習となるよう、資料等の充実を図っていきたいと考えている。

科目名：実践看護技術学Ⅱ（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：58 回収率：96.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.6	4.9	4.8	4.7	4.7	4.6	4.5	3.9	4.6	4.6	4.5	4.6	4.7	4.6	4.3	4.6	4.6	4.6

＊評価に対するコメント

実践看護技術学Ⅱ 担当教員

実践看護技術学Ⅱは、入院、手術後、手術からの回復期、在宅での疼痛管理という患者状況を設定し、それぞれの場面に必要な看護援助を演習、自己学習、技術試験という構成で学ぶプログラムでした。

学生の皆さんは、自主的に技術習得に向けて練習し、試験に臨んでいました。この学びを臨地看護学実習で十分に活用してほしいと思います。

臨地看護実習企画に対する学生評価

実 習 計 画	実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実 習 内 容	実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 実習中に課された記録・提出物の量は適切であった。 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実 習 環 境	教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総 合 評 価	実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
④ やや思う (良い)
③ どちらとも言えない (普通)
② あまりそう思わない (あまり良くない)
① 全くそう思わない (良くない)

科目名：基礎看護学実習Ⅱ (看護学科第2学年後期／必修)

履修者数：61 配付数：60 回収数：57 回収率：95.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.4	3.9	4.1	3.9	4.1	4.1	4.0	4.2	4.1	4.4	4.2	4.2

*評価に対するコメント

基礎看護学実習Ⅱ 担当教員

看護職を目指す意欲が高まった、実習は満足できるものであったが4.2との評価で担当教員一同嬉しく思います。高い評価項目に関しては教育方法等を継続していきたいと思います。また、教員間および臨地看護実習指導者との連携が図れるよう今後も検討していきたいと思います。

令和2年度 新入生ガイダンスを行いました

令和2年度看護学科新入生ガイダンスが7月28日(火)、医学科新入生ガイダンスが同月29日(水)、医学科第2年次編入生ガイダンスが8月28日(金)に看護学科棟大講義室で行われました。当該ガイダンスは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、通学できない日々が続いている中で、後期授業が始まる前に、一度大学に来ていただく機会となりました。

マスクを着用し、会場に入場する際には手指消毒、会場内では間隔を空けて着席するなどの対策をして実施されました。

ガイダンスでは、教育・研究担当副学長の西川祐司教授(病理学講座)からの開会の挨拶に続いて、保健管理センターから新型コロナウイルス感染防止のための行動や自己管理の徹底が引き続き必要であることについて、学生支援課からは、夏休み明けからの授業方法、定期試験等についての説明がありました。また、医学科第1学年担当の立野裕幸教授(生物学)から「困ったときにはいつでも相談してほしい」とお話があり、看護学科第1学年担当の山根由起子教授からは「皆さんの声を聞きたい」ということから、短いながらも自己紹介の時間が設けられました。医学科第2年次編入生ガイダンスでも医学科第2学年担当の秋田谷龍男教授(化学)から「どんなことでもいいので気軽に相談してほしい」とのお話の後に、簡単な自己紹介の時間が設けられました。

開会前は緊張した面持ちだった学生たちも、閉会後は密にならないよう気を付けながら連絡先を交換するなど、打ち解けている姿を見ることができました。



(医学科ガイダンス)

令和2年度 後期の授業方針について

1. 共通事項

- (1) 原則として、登校開始日からさかのぼる14日間、旭川市及び周辺地域の自宅住所地に滞在し、健康チェックで問題がない場合に、登校して授業や実習・演習を受けることができます。なお、現在の感染状況においては、この期間の北海道内移動は可能ですが、感染予防には十分注意してください。今後、北海道内移動を制限せざるを得ない状況になった場合は、改めて通知します。
- (2) 健康チェックは授業開始後も各自継続して実施します。
- (3) 授業期間中は、原則として上記自宅住所地にいるように要請しています。
- (4) 土・日、休日などにやむを得ない理由で北海道外に移動する場合は、1週間前までに学生支援課教務係に申告してください。このような場合は、帰宅後14日間は自宅でオンライン授業を受講します。

【14日間の検疫期間の数え方】

帰 宅 日 (0日)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	登 校 日 (15日目)
---------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	-----------------

2. 講義

- (1) オンライン授業（manaba、Zoom）と分散登校による対面授業を併用して行います。登校時には感染対策ルールを厳守してください。
- (2) 一度に登校できるのは学年の半分まで（学年を2つのグループに分け、第1、第2グループの登校日を指定）とします。登校日に指定されていない学生は自宅でオンライン学修を行います。
- (3) 発熱などの体調不良がある場合は、登校せずにオンライン授業を受けます。
- (4) 登校を指定された学生が、同日に対面授業の科目とオンライン授業の科目を受講する場合、通学に時間がかかる等の理由で時間内の移動が困難となることを考慮し、オンライン授業を受講できる教室を準備します。
また、自宅ネット環境の不良、PCの故障などによりオンライン授業を受講できない場合、図書館を使用できます。
- (5) 自らの感染または他人への感染に対する強い不安感がある場合は、体調不良などの特別の理由がない場合でも、登校日に自宅でオンライン授業を受けることができます。
- (6) 授業に当たっては、「3密」を避けるとともに、マスク着用、手指消毒、机上清拭などの感染対策を十分に行ってください。マスク（予備）、手指消毒液、消毒用エタノールは大学で準備します。学生には、授業終了後、自ら各々の机を拭き、休み時間には換気を行ってください。
- (7) 講義室の座席は指定制です。

3. 実習・演習(臨床実習、臨地看護学実習を除く)

- (1) 分散登校とオンライン授業を併用して行います。登校時には感染対策ルールを厳守してください。
- (2) 登校できるのは学年の半分まで(第1グループ、第2グループで登校日を指定)とします。残りの学生は自宅で学修する体制です。
- (3) 実習・演習の場合は、学生が登校を指定された日に、感染に対する不安感のみを理由として登校を拒否することは許可しません。

旭川医科大学執行部紹介

令和2年7月以降の役員等は、下記のとおりとなりましたのでお知らせします。

職 名	氏 名
学 長	吉 田 晃 敏
理事, 副学長(東京オリンピック・パラリンピック, 評価, 病院機能強化)	松 野 丈 夫
理事, 副学長(手術部強化)	平 田 哲
理事(財務)(非常勤)	浜 野 恭 義
理事(未来技術)(非常勤)	山 崎 美 幸
監事(業務)	鈴 木 義 幸
監事(会計)	桶 利 光 (9/1～)
副学長(入試)	三 好 暢 博
副学長(教育, 研究)	西 川 祐 司
副学長(医療, 地域医療, 国際規格ISO15189), 病院長	古 川 博 之
副学長(内科学分野再編)	奥 村 利 勝
図書館長	藤 井 聡
学長補佐(基礎医学と臨床医学の連携)	川 辺 淳 一
学長補佐(看護学教育の充実)	服 部 ユカリ
学長補佐(国際交流, 地域・産学連携)	吉 田 貴 彦
学長補佐(大学基金)	原 渕 保 明
学長補佐(I R)	松 本 成 史
学長補佐(国際医療人育成枠)	藤 井 聡
学長補佐(地方公立病院支援)	牧 野 雄 一
副病院長(事故防止, 安全問題, 国際連携)	東 信 良
副病院長(外来)	竹 川 政 範
副病院長(事故防止, 安全問題, 患者サービス, ボランティア, 国際医療支援センターにおける看護師教育)	原 口 眞紀子
病院長補佐(メディカルスタッフ)	大 田 哲 生
病院長補佐(臨床倫理)	加 藤 育 民
病院長補佐(先端医療・医療機器)	藤 谷 幹 浩
病院長補佐(国際医療支援センター)	本 間 大
入学センター長	三 好 暢 博
教育センター長	西 川 祐 司
知的財産センター長	松 本 成 史
看護職キャリア支援センター長	服 部 ユカリ

教 員 の 異 動

令和2年4月1日	昇任	医学部病理学講座 (免疫病理分野)	講師	小坂 朱
令和2年4月1日	昇任	病院皮膚科	講師	井川 哲子
令和2年4月1日	昇任	病院眼科	講師	大前 恒明
令和2年4月30日	退職	医学部内科学講座 (病態代謝内科学分野)	教授	太田 嗣人
令和2年5月14日	昇任	医学部看護学講座	教授	山内 まゆみ
令和2年5月14日	昇任	医学部脳神経外科学講座	准教授	安栄 良悟
令和2年5月14日	昇任	病院脳神経外科	講師	広島 寛
令和2年6月18日	昇任	医学部内科学講座 (消化器・血液腫瘍制御内科学分野 (消化器・内視鏡学部門))	教授	藤谷 幹浩
令和2年6月18日	昇任	医学部内科学講座 (消化器・血液腫瘍制御内科学分野 (がんゲノム医学部門))	教授	水上 裕輔
令和2年6月18日	昇任	医学部産婦人科学講座	教授	加藤 育民
令和2年6月30日	退職	医学部眼科学講座	講師	宋 勇錫
令和2年6月30日	退職	病院産科婦人科	講師	宮本 敏伸
令和2年8月31日	退職	医学部生化学講座 (細胞制御科学分野)	教授	谷口 隆信

(令和2年8月31日現在)

訃報

本学名誉教授米増 祐吉氏(行年88才)におかれましては、令和2年5月7日(木)逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和52年12月本学医学部脳神経外科学講座の初代教授として就任され、平成5年4月から平成7年3月まで医学部附属病院手術部長、平成7年4月から平成9年3月まで同輸血部長を歴任し、大学及び附属病院創設期の基礎作りとその発展に多大な貢献をなされました。

永年にわたって医学の研究と学生の教育・指導にご尽力され、学術研究面では、脳神経外科学、小児脳神経外科学、間脳下垂体腫瘍学、てんかんの外科学、脳循環・代謝学など広い領域に亘って業績を上げ、特に「ホルモン産生下垂体腺腫の治療に関する研究」は、昭和61年に北海道医師会賞・北海道知事賞を受賞されました。

教育面では、医師としてのあるべき姿と、地域医療に密接した臨床の大切さを教育され、ご自身も地域住民とのふれあいを大切にされていました。

臨床面では、下垂体性のCushing病の手術として我が国で第一例目を報告し、積極的な改良を加えた手術器械は広く使用され、高く評価されました。

また、道東・道北の脳神経外科のセンター病院としての基礎を築かれるなど、一貫して医学の発展、地域社会の医療の向上に寄与された功績はまことに顕著でありました。

(総務課)